

平成31年度（令和元年度）

シラバス

青翔開智高等学校

第1学年

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態	
国語	国語総合(現代文)	2	高校1年	必修	
科目の目標	評論、小説の読解によって読解の技術および読解に必要な知識を身につけること。 それによって世界を認識する視点を獲得すること。 また、ディベート等の表現活動によって情報収集から発表までのプロセスを身につけること。				
学習内容の概要	評論の読解ではその技術だけでなく重要テーマについての知識も同時に身につける。 小説の読解では文学研究の手法で本文理解だけにとどまらない鑑賞方法を学習する。 定期的に授業冒頭で、漢字もしくは語句の小テストを実施する。 また、月1回程度表現活動を実施、表現および教科書外のテーマについても学習する。				
評価の観点	1 関心・意欲・態度	2 話す・聞く能力	3 書く能力	4 読む能力	5 知識・理解
	各言語活動に積極的に参加しているか。	目的や場に応じた確に聞き取り、自分の意見をまとめ深めることができるか。	相手や目的に応じた適切な文章を書くことができるか。	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み取ることができるか。	読解に必要な知識を習得することができるか。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 単元テスト、成果物、平常点(小テスト、提出物、授業態度)				
教科書、教材	国語総合現代文編(大修館書店)、国語辞典(指定なし)、漢和辞典(指定なし)、ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)、教材プリント				
授業形態	習熟度別				

年間学習計画												
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点			
1学期	4	ガイダンス		1	○			○	3			
		「水の東西」 / 演習	東洋と西洋の差異とその背景について理解する	2								
	5	「空気を読む」	本文の要約をする	8				○	2			
	6	『『美しさの発見』について』	世界を認識する方法としての言語について理解する	3								
		「自然と人間の関係を考える」	人間と自然の関係に対する筆者の意見を読み取る	3								
	7	ビブリオバトル	プレゼンテーション能力を磨く 学校図書館と連携する	4								
2学期	8	「羅生門」	登場人物の心理や性格について理解する 登場人物の言動から心情を読み取る	5				○	2			
	9	ディベート	テーマは生徒が設定する 学校図書館と連携する	3								
	10	「メディアとしての顔」	情報化社会とメディアの関係を考える	8								
	11	「鏡」「コート」	善悪について考察する	8								
	12	「城の崎にて」	人間の生と死について考察する 近代文学史について理解する	8								
3学期	1	「白」「意味と身体」／演習	主要な部分と従属的な部分を読み取る 現代の日本文化に興味を持つ	13				○	2			
	2											
	3	短歌を詠す一言の壁を超えて	創作活動	4				○	3			
		文学史	時代・作品等は生徒が設定 学校図書館と連携する	3								

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
国語	国語総合(古典)	2	高校1年	必修

科目の目標	古文は、読解に必要な文法および単語の基本的な知識を身につけること。また、随筆の通読によって当時の人々の思考を理解すること。漢文は、読解に必要な句法および用字の基本的な知識を身につけること。				
学習内容の概要	古文は、講義・演習・小テストによって、初年度で文法および単語の基本的な知識を定着させる。同時に、簡単な読解によって知識のアウトプットをはかるとともに、文学史も学習する。なお、随筆の通読は定期考査および長期休業ごとの自学課題とする。漢文は、講義・演習・小テストによって、訓読および文章の読解ができるようにする。				
評価の観点	1 関心・意欲・態度	2 話す・聞く能力	3 書く能力	4 読む能力	5 知識・理解
	各言語活動に積極的に参加しているか。	目的や場に応じた的確に聞き取り、自分の意見をまとめ深めることができるか。	相手や目的に応じた適切な文章を書くことができるか。	文章を的確に読み取り、目的に応じて幅広く読み取ることができるか。	読解に必要な知識を習得することができるか。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 単元テスト、成果物、平常点(小テスト、提出物、授業態度)				
教科書、教材	国語総合古典文庫(大修館書店)、体系古典文法(数研出版)、体系古典文法ワーク(数研出版)、古典文法マスタードリル①②(数研出版)、完全征服合格古文単語380(桐原書店)、徒然草(角川ソフィア文庫)、新明説漢文(尚文出版)、新明説漢文ノート(尚文出版)、ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)、古語辞典(指定なし)、漢和辞典(指定なし)				
授業形態	習熟度別				

年間学習計画													
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点				
1学期	4	ガイダンス		1									
		ちごのそら寝	動詞の復習	4									
	5	「今昔物語集」 「枕草子」 演習	品詞分類 動詞、形容詞、形容動詞についての知識を定着させる	14									
	6												
	7	「竹取物語」 「伊勢物語」 演習	助動詞の意味、活用、接続についての知識を定着させる	16									
8													
9													
2学期	10	「土佐日記」 演習	助詞の意味についての知識を定着させる 修辭法に基づき和歌の意味がとれるようにする 創作活動	10						○		○	2・3
	11												
	12	『先從隗始』 故事成語 漢詩	訓読のきまりについて理解できる 漢字の意味や成り立ち、読みについて理解する	20									
1													
2	「徒然草」 演習				敬語の種類と主語の判定ができるようにする 総合問題によって全範囲を復習する	10							
3													
3学期					○			○	3				

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
公民	現代社会	2	高校1年	必修

科目の目標	科学的な探究の精神に基づき、現代社会の仕組みや成り立ちを分析・理解するとともに、社会における人々の規範を確認し、社会に貢献できる公民として必要な能力と態度を養成する。			
学習内容の概要	政治分野・経済分野・国際分野の三つの観点から社会の成り立ちを考え、また人間の生き方あり方を哲学、宗教的分野から考察していく。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	社会的事象に対する関心を高め、意欲的に追求しながら、社会の一員としての自覚と責任を考えることができる。	社会的事象から課題を見出し、意義や特色、相互の関連を多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断することができる。	平素から各種の資料に親しみ、情報を適切に選択して活用し、追求した過程や結果を適切に表現できる。	社会的事象の意義や特色を理解し、知識を身に付け、社会生活の中で有用に活用できる能力が育っている。
評価の方法	単元末テスト 60%		成果物・提出物・各活動における意欲と態度 40%	
教科書・教材等	現代社会 改訂版(山川出版)、現代社会ノート 改訂版(山川出版)、現代社会演習ノート(数研出版)			
授業形態	一斉			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	現代の民主政治と民主社会の倫理	1. 日本国憲法の成り立ち	6					
	5		2. 基本的人権の保障	6					
	6		3. 平和主義と日本の安全保障	4					
	7		4. 現代政治と民主社会	6				○	
2	8	現代の経済社会と経済活動のあり方	1. 現代経済のしくみ	4					
	9		2. 経済の発展と国民生活	7					
	10	国際社会の動向と日本	1. 現代の国際政治	13					
	11		2. 現代の国際経済	13	○				
3	12	私たちの生きる社会	1. 環境 2. 資源・エネルギー	4					
			3. 生命 4. 情報	5					
	1	青年期と自己の形成	1. 青年期の意義と自己実現	3					
	2		2. よく生きるということ 3. 日本の伝統や文化	5					
	3	ともに生きる社会をめざして	現代の諸制度の考察	2					

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
数学	数学Ⅰ	3	高校1年	必修

科目の目標	「数と式」「2次関数」「図形と計量」「データの分析」及び「式と証明」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習内容の概要	数を実数まで拡張させ、式や関数について中学までの既習内容をより一般化する。また、新たに三角比を導入し、三角形の辺の長さの比を用いてさまざまな図形を考察する。さらに、統計処理に関する内容も取り扱い、データを整理、分析する方法を学ぶ。 命題の必要性、十分性を学ぶことによって、より数学的に考察する方法を習得する。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	各単元の考え方に関心を持ち、事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現する、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	各単元における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・定期考査　・課題　・授業評価			
教科書、教材	数学Ⅰ（数研出版）、4STEP数学Ⅰ+A（数研出版）			
授業形態	習熟度別			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	数と式	式を多面的にみたり処理したりするとともに、一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。 ・式の計算 ・実数 ・1次不等式	20					
	5								
	6								
	7	2次関数	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識する。さらに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・2次関数とグラフ ・2次方程式と2次不等式	30					
8									
2	9	図形と計量	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識する。さらに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角比 ・三角形への応用	30	○				
	10								
	11								
	12	データの分析	統計の基本的な考えを理解し、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 ・データの代表値 ・データの散らばりと四分位範囲 ・分散と標準偏差 ・データの相関 ・表計算ソフトによるデータの分析	27	○			○	
1									
2	式と証明								
3									

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
数学	数学A	2	高校1年	必修

科目の目標	「場合の数と確率」「図形の性質」及び「整数の性質」について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。			
学習内容の概要	場合の数について、中学校までの既習内容をより一般化して求める方法を学び、複雑な事象の確率も求めることができるようにする。 また、新たに図形の性質を学び、それらを複雑な図形の考察に用いる。 さらに、整数に関する性質も学び、活用方法を知る。			
評価の観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
	各単元の考え方に関心を持ち、事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現する、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えることができる。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	各単元における基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。
評価の方法	以下の内容を総合的に判断して評価する。 ・定期考査　・課題　・授業評価			
教科書、教材	数学A(数研出版)、4STEP数学Ⅰ+A(数研出版)			
授業形態	習熟度別			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	集合と命題	集合と命題に関する基本的な概念を理解する。また、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・集合と命題	18					
	5								
	6								
2	7	場合の数と確率	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・集合の要素の個数 ・確率	20	○				
	8								
	9								
	10	図形の性質	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・平面図形 ・空間図形	20	○				
	11								
12									
3	1	整数の性質	整数の性質についての理解を深め、それを事象の考察に活用できるようにする。 ・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法 ・整数の性質の活用	20	○				
	2								
	3								

教科名	科目名		単位数	対象学年	履修形態
理科	地学基礎		2	高校1年	必修
科目の目標	地学の基本的な概念や原理・法則を理解すること。科学的思考力および好奇心を伸ばし、主体的に自然を探究する能力と態度を高め、目的をもとに課題を科学的に分析・解決する能力を養うこと。				
学習内容の概要	地球の構造と内部の活動、地球史、大気の循環と気象の変化について理解する。太陽系を中心とした天体の特徴を理解し、太陽、地球、月といった天体と一般的な恒星、惑星、衛星とに関連づけて理解する。				
評価の観点	関心・意欲・態度		判断・思考		観察・実験の技能・表現
	地学的な事物・現象に関心・探究心をもち、意欲的に解決する態度を身につけようとする。		地学的な事物・現象に問題を見だし、事象を科学的に考え、判断できる。		地学的事象・現象を科学的に探究する方法を身につけ、過程や結果を的確に表現できる。
評価の方法	単元テスト	30%	レポート	30%	成果物
					20%
教科書・教材等	数研出版『地学基礎』 センサー地学基礎改訂版 その他プリント				
授業形態	一斉				

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	ガイダンス	地学を学ぶにあたって	2					
		固体地球とその変動	地球の外観、地球の内部構造、プレートテクトニクス理論、地震波の伝達、火山活動と火成岩の形成	16					
	5								
	6								
	7	大気と海洋	大気圏、水と気象、太陽放射とエネルギー収支、大気の大循環、海水の循環、日本の気象	12					
2	8	図書館利用学習	地震災害に備える	12	○				
	9					○		○	
	10				○				
	11	移り変わる地球	堆積岩とその形成、地層と地質構造、地球の歴史の組み立て、先カンブリア時代、顕生代	16				○	
					○				
3	1	宇宙の構成	太陽系の天体、太陽系の誕生、太陽、太陽と恒星、太陽の誕生と進化、銀河系と宇宙	12					
						○		○	
					○				
	2	自然との共生	地球環境と人類、災害、防災	8				○	
	3				○				

教科名		科目名	単位数	対象学年	履修形態									
体育		体育	2	高校1年	必修									
科目の目標		①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。 ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。												
学習内容の概要		体育分野の内容は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されている。運動に関する領域は、「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「武道」及び「ダンス」であり、知識に関する領域は、「体育理論」である。能動的で安全な集団としての行動の仕方(集団行動)を各領域において適切に行うこととしている。												
評価の観点		関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識理解									
		運動の楽しさに触れ全力で運動しようとしている。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとしている。	運動の特性に応じて、自己やグループの課題の解決を目指し、活動の仕方を考えたり工夫したりしている。また、その結果を適切に振り返っているか。	運動の課題や行い方、戦術を基に運動を行うことが出来、運動の特性に応じた技能やゲームの進め方を身につけている。	運動に関わる心身の動き、運動の行い方や作戦、運動の練習の原則及び生活における運動の取り入れ方や意義に関する基礎的な知識を理解し、身につけ生かしている。									
評価の方法		【関心・意欲・態度】安全に配慮して行う、挨拶や声かけ、協調性 【知識・理解】単元ごとのペーパーテスト(年間10回) 【技能】単元ごとのスキルテスト(年間10回) 【思考・判断】課題解決に向けて、質問したりアドバイスをすることができる。												
教科書・教材等		保健体育(大修館)												
授業形態		男女別												
年間学習計画														
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点					
1	4	体づくり運動	オリエンテーション、軽スポーツ、集団行動、補強運動、新体力テスト	6										
	5	球技 陸上競技 [中距離]	AIアプリを活用しフォームの分析、レペティション、インターバル、1500mタイム測定	6										
	6	球技 ゴール型 [バスケットボール]	パス練習、ドリブル練習、シュート練習、試合	8										
	7	球技 ベースボール型 [ソフトボール]	・打撃・捕球・送球などの用具操作 ・走者と連携した打撃による攻撃とその守備 ・ゲーム	6										
2	8	球技 ネット型 [バドミントン] 体育理論	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	6										
	9													
	10	球技 ゴール型 [サッカー]	パス練習、ドリブル練習、シュート練習、試合	8										
	11	球技 ゴール型 [ハンドボール] 体育理論	・パス、シュート、ドリブル等の基礎的なことからゲーム展開 ・自分のシュートフォームをiPadで撮影して改善点を見つける。	8										
	12	球技 ネット型 [卓球]	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	6										
3	1	器械運動 [マット、器械運動]	回転系の技の習得(前方倒立回転・ロンダート等)	9										
	2													
	3	球技 ネット型 [バレーボール]	・パス・アタック・サービス、試合	9										

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
保健体育	保健体育	2	高校1年	必修
科目の目標	①各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付ける。 ②運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 ③生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。			
学習内容の概要	単元ごとの目標を明確にし、必要に応じて情報提供をおこなったり、自らインターネットや本で情報を集めたりするなど、健康に対する意識を高められるような授業展開をする。内容は、運動に関する領域及び知識に関する領域で構成されている。運動に関する領域は、「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「球技」であり、知識に関する領域は、「体育理論」である。			
評価の観点	関心・意欲・態度 運動の楽しさに触れ全力で運動しようとしている。また、自ら進んで運動の楽しさや喜びを体得しようとしている。	思考・判断 運動の特性に応じて、自己やグループの課題の解決を目指し、活動の仕方を考えたり工夫したりしている。また、その結果を適切に振り返っているか。	技能 運動の課題や行い方、戦術を基に運動を行うことが出来、運動の特性に応じた技能やゲームの進め方を身につけている。	知識理解 運動に関わる心身の動き、運動の行い方や作戦、運動の練習の原則及び生活における運動の取り入れ方や意義に関する基礎的な知識を理解し、身につけ生かしている。
評価の方法	【関心・意欲・態度】安全に配慮して行う、挨拶や声かけ、協調性 【知識・理解】単元ごとのペーパーテスト(年間10回) 【技能】単元ごとのスキルテスト(年間10回) 【思考・判断】課題解決に向けて、質問したりアドバイスをすることができる。			
教科書・教材等	保健体育(大修館)			
授業形態	2クラス合同、男女別			

年間学習計画									
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	体づくり運動	・集団・整列 ・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動 ・体力テスト	4					
	5	体育理論 球技1 ゴール型「ハンドボール」	・パス、シュート、ドリブル等の基礎的なことからゲーム展開 ・自分のシュートフォームをiPadで撮影して改善点を見つける。	8					
	6	陸上	(長距離走)リラックスした走り、自分にあったピッチとストライドを見つける。	6					
	7	球技2 ネット型「バレーボール」	・パス・アタック・サービス ・対人パスをiPadで撮影して改善点を見つける。	8					
	8								
2	9	球技3／体育理論 ベースボール型 「ソフトボール」	【体育理論】スポーツと経済「ガイナール鳥取の集客力をアップさせる」 ・打撃・捕球・送球などの用具操作 ・走者と連携した打撃による攻撃とその守備 ・ゲーム	8					
	10	球技4 ゴール型「バスケットボール」	・パス、シュート、ドリブル等の基礎的なことからゲーム展開 ・チームの攻守をiPadで撮影して改善点を見つける。	8					
	11	球技5 ネット型「バドミントン」 体育理論	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	8					
	12	球技6 ネット型「卓球」	ラケットの持ち方の確認、各ショットの練習、ゲーム	8					
3	1								
	2	選択 ダンスまたは器械運動	(現代的なリズムのダンス) グループで曲を選択し、練習をして発表。 (マット運動) グループで教え合い、技の練習。	6					
	3	球技 バレー(男女合同)	・試合	6					○

教科名		科目名		単位数	対象学年		履修形態							
保健		保健		1	高校1年		必修							
科目の目標		①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 ②健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 ③生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。												
学習内容の概要		現代社会と健康 ①健康の考え方 ②現代の感染症とその予防 ③生活習慣病などの予防と回復 ④喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 ⑤精神疾患の予防と回復												
評価の観点		知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度										
		個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養おうとする。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとする。										
評価の方法		60	%	10	%	30	%							
教科書・教材等		保健体育(大修館)												
授業形態		男女別												
年間学習計画														
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点					
1	4	現代社会と健康	私たちの健康のすがた、健康のとらえ方、健康と意思決定・行動選択	2										
	5		健康に関する環境づくり、歴史からみたさまざまな健康問題のとらえ方、生活習慣病とその予防	3										
	6		食事と健康、運動と健康、休養・睡眠と健康	3										
	7		喫煙と健康、飲酒と健康	3										
2	8													
	9		薬物乱用と健康、健康にかかわる行動を考えてみよう	3										
	10		現代の感染症、感染症の予防、感染症・エイズとその予防	3										
	11		欲求と適応機制、心身の相関とそのストレス、ストレスへの対処、心の健康と自己実現	3										
	12		交通事故の現状と要因、交通社会における運転者の資質と責任	4										
3	1		安全な交通社会づくり、防災・防犯を目指した社会づくり	4										
	2		応急手当の意義とその基本、心肺蘇生法	3										
	3		日常的な応急手当	2										

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
音楽	音楽 I	2	高校1年	選択

科目の目標	人間が生活や社会の中でどのように音楽を生み出し、育んできたのかを知るとともに、文化的、歴史的背景などの広い視野と、深く細部を見る目をもって、音楽についての理解を深めていくこと。また、音楽の幅広い表現を通して、生涯にわたり音楽を愛好し、その存在を身近なものに感じる心を育むこと。			
学習内容の概要	曲想、歌詞の内容、楽曲の背景など、楽譜に記されていること、記されていないことの両方から、その曲が表現しようとするものを真摯に読みとることの大切さを学ぶ。その上で、自分なりのイメージを膨らませながら、思いをもって表現できるように工夫していく。			
評価の観点	音楽への関心、意欲、態度	音楽的な感受や表現の工夫	表現の技能	鑑賞の能力
	個人での学びと、人との協力の両面から何かを感じ取り、自分なりの興味や工夫をもって参加している。	曲のもっている良さや特質に関心を持ち、自己のイメージや感情を生かして表現をしている。	リズムやハーモニーの重なりなど、音楽の要素について、その特徴や役割に関心を持って表現している。	曲のもっている情景や心情を、自分の感情を通して感じ取っている。
評価の方法	定期考査 40% 実技 30% 提出物 30%			
教科書・教材等	高校生の音楽1、マイソング、他			
授業形態	一斉、グループ、ペア、個人			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	イメージと歌唱表現	曲想を感じ取り、イメージをもって、声の音色や強弱、フレーズなどを工夫しながら楽曲にふさわしい表現を求めていく。	3					
	5	西洋音楽史	音楽の特徴とその背景となる文化・歴史に関心を持ち、音色や雰囲気を感じながら鑑賞する。	3				○	
	6	ポピュラーミュージックとコード	ジャズや他のポピュラーミュージックのリズム、音階、和音などの特徴を知覚し、独特な曲想を感じ取りながら鑑賞するとともに、コードによる伴奏付けを学習する。	4					
	7	響きを意識した歌唱表現	各声部のかかわり合いや全体的な調和、お互いのバランスを聴きながら、合唱表現の特徴を生かして歌う。	4					
2	8								
	9	器楽表現(リズムアンサンブル)	音素材の特徴や反復、変化、対照などの構成を生かし、リズムアンサンブル、リズム創作をする。	5					
	10	日本の歌曲	日本の歌詞の美しさ、声の音色、歌とピアノ伴奏とのハーモニーやアンサンブルを意識し、日本の歌曲の味わいを感じ取りながら歌う。	5					
	11								
	12	創作表現	音階やリズムを選んで旋律を作り、その旋律に和音などをつけて、イメージを持って音楽をつくる。	4					
3	1	鑑賞(音楽とその背景)	楽器の音色や音楽の構造など、作曲家や時代による曲想の違いや表現の特徴、また文化的、歴史的背景などを理解するとともに、それぞれの良さや美しさなどを味わいながら鑑賞する。	4	○				
	2	音楽の世界を広げる	世界の様々な種類の音楽を聴くことを通して、それぞれの楽曲が持つ世界に触れ、その響きがつくりだす感情、表情のうねりなどを体で感じてみる。そこで感じたものを、それぞれが自由に表現へとつなげる。	6					
	3								

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
芸術	美術 I	2	高校1年	選択

科目の目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。							
学習内容の概要	表現・造形の基礎となる観察力を深め、形体や空間などの的確な表現力を身につけ更に個性的な表現方法を学ぶ。生活の中にあるデザインに気づきその重要性を知る。ポスターの制作を通してメッセージを伝える方法を学ぶ。 鑑賞・様々な視点から作品を見る方法を学び、作者の心情を読み解く力を養う。自然と美術との関わり、生活や社会を心豊かにする美術の働きについて考え、理解を深める。日本の美術の歴史や特質、日本及び諸外国の美術文化について理解を深める。							
評価の観点	関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力				
	主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組み、その喜びを味わい美術を愛好していこうとする。	感性や想像力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に、豊かに発想し、よさや美しさなどを考え、心豊かで創造的な表現の構想をする。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し、創造的に表している。	美術作品や文化遺産などに親しみ、感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感取り味わったり、理解したりする。				
評価の方法	定期考査	50%	発想・構想	20%	技能	20%	授業態度	10%
教科書、教材	美術Ⅰ（日本文教出版）、スケッチブック							
授業形態	一斉							

年間学習計画									
学期	月	題材	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	ガイダンス 美術作家を調べる		4				○	
	5	バッグのデザイン	・バッグのデザインを考え、バッグを作る。	28					
	6								
	7								
2	8								
	9								
	10	対話型鑑賞	・話し合いながら世界の名画を深く鑑賞する。	8					
	11	ねんどを使って 映像制作	・ねんどで主人公を作り、校内外で映像をグループで つくる。	18					
	12								
	3	1	スプレーアート	・スプレーを用いて作品を作る。					
2									
3									

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
外国語	コミュニケーション英語I	4	高校1年	必修

科目の目標	英語を通じて言語や文化に対する理解を深め、オンラインスピーキングを通してコミュニケーションを図ろうとする意欲・態度の向上、コミュニケーション能力の定着を目指す。2020年度新大学入試に向けて思考力を深め、聞くこと、書くこと、読むこと、話すことなどのコミュニケーション能力の向上を目指す。			
学習内容の概要	上記の目標達成のために世界情勢、スポーツ、テクノロジー、戦争と平和等に関する英文読解を行い、図書館利用活動を通して学びを深める。必要な英語表現を覚え、適切に書いたり、話したりできるように演習を行う。			
評価の観点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心を持ち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	外国語表現の能力 (話すこと・読むこと・書くこと) 様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を英語で話したり、書いたりして適切に表現することができるか。	外国語理解の能力 様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を的確に理解することができる。また、聞き手に伝わるように適切に音読することができるか。	言語や文化についての 知識・理解 様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。
評価の方法	図書館利用学習での成果(演劇・レポート・発表など) 提出物 40% 単元末テスト 60% 全活動における意欲と態度			
教科書・教材等	MAIN STREAM I MAINSTREAM I Workbook (増進堂) New Treasure English Series Stage 3 Second Edition, New Treasure English Series stage 3 文法問題集(以上、Z会) New Treasure English Series Stage 3 Second Edition Speaking B(予定)(Z会)			
授業形態	習熟度別			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	NEW TREASURE Stage 3 Lesson 1-4	図書館利用学習①英文名書リサーチプレゼン 習得するジェネリックスキル:情報リテラシー	3	○			○	
	5		完了形、助動詞、不定詞、使役・知覚動詞 世界情勢 スポーツ	39					
	6								
	7		図書館利用学習②青関世界English Battle 学年予選 習得するジェネリックスキル:創造と表現	6	○			○	
2	8	NEW TREASURE Stage 3 Lesson 5	テクノロジー 受動態	10					
	9		図書館利用学習③映画・アニメーション・ゲームを用いた活動 習得するジェネリックスキル:クリティカルシンキング	8	○			○	
	10	NEW TREASURE Stage 3 Lesson 7	戦争と平和 アート 関係代名詞	10					
	11		図書館利用活動④ 日本の現代アートについて調査後、英作文 習得するジェネリックスキル:ロジカルシンキング・情報リテラシー	8	○			○	
			オンラインスピーキングトレーニング受講 (計10回/～1月中旬までを予定)	10					
	12	NEW TREASURE Stage 3 Lesson 10	国際関係 分詞	10					
			図書館利用学習⑤日本、オーストラリアについてポスター制作 習得するジェネリックスキル:ロジカルシンキング 創造と表現	8	○			○	
3	1	NEW TREASURE Stage 3 Lesson 11,12	言語 文学 仮定法 比較	32					
	2		図書館利用学習⑥ 多読活動2 中1との合同実施 習得するジェネリックスキル:ロジカルシンキング、創造と表現	4	○			○	
	3		図書館利用学習⑦ ブリスベン研修へ向けた活動 習得するジェネリックスキル:創造と表現	8	○			○	

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
家庭	家庭基礎	2	高校1年	必修

科目の目標	人の一生と家族・家庭及び福祉・衣食住・消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。			
学習内容の概要	第1章 自分らしい人生をつくる 第2章 子どもと共に育つ 第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える 第5章 食生活をつくる 第6章 衣生活をつくる 第7章 住生活をつくる 第8章 経済生活を営む 第9章 生活を設計する			
評価の観点	関心・意欲・態度 家族や家庭生活について関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。家庭生活向上のために意欲的に取り組む姿勢があるか。学んだことを生かそうとする実践的な態度を身につけたか。	思考・判断 家族や家庭生活に関心を持ち、意欲的に授業に参加しているか。家庭生活向上のために意欲的に取り組む姿勢があるか。学んだことを生かそうとする実践的な態度を身につけたか。	技能・表現 食事づくりや衣生活、住生活の管理に必要な基本技術を身につけているか。生活上の工夫や自分の考えを的確に表現することができるか。	知識・理解 家庭生活の意義や役割を理解したか。高齢者や子どもに対して正しい理解を持つことができたか。衣食住や消費生活などに対する基本的な知識を身につけているか。
評価の方法	定期考査 60% 授業態度等 40%			
教科書・教材等	家庭基礎(東京書籍) 基礎縫いプレレッスンキット・基礎縫いリネンメイドキット(クロスサム)			
授業形態	一斉、グループ			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	第1章 自分らしい人生をつくる	・家族・家庭生活をみつめる	2					
	5	第5章 食生活をつくる	・食生活について考える	18					
			・食事の栄養・食品						
			・食生活の安全と衛生						
6		・生涯の健康を見通した食事計画							
		・調理の基礎							
7	第7章 住生活をつくる	・住生活について考える	8						
		・住生活の計画と選択							
2	8		・これからの住生活						
	9	第3章 高齢社会を生きる	・高齢期を理解する	8					
			・高齢者の心身の特徴						
	10	第6章 衣生活をつくる	・被服の役割を考える	14					
			・被服を入手・管理する						
11	第2章 子どもと共に育つ	・これからの衣生活(手縫い、ミシン縫いの実習)	10						
12									
3	1	第4章 共に生き、共に支える	・私たちの生活と福祉	6					
	2	第8章 経済生活を営む	・国民・国際経済と家庭の経済生活	8					
		第9章 生活を設計する	・現代の消費社会 ・生涯を見通す						
		第1章 自分らしい人生をつくる 家庭基礎のまとめ	・青年期の課題と人生をつくる ・ホームプロジェクト	8					

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
情報	情報の科学	1	高校1年	必修
科目の目標	情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。			
学習内容の概要	現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を科学的な見方・考え方で理解し、習得させるとともに、情報機器等を活用して情報に関する科学的思考力・判断力等を養うなど、社会の情報化の進展に主体的に寄与することができる能力・態度を育てることに重点を置く。またプレゼンテーションなどの実習を通じ、「情報活用の実践力」「情報の科学的な理解」「情報社会に参画する態度」の育成をはかる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	各単元の考え方や情報社会の事象に関心を持ち、積極的に活用する態度を身につける。	氾濫する情報を批判的に読み解き、必要に応じて活用する。	デジタル技術の性質を理解し、ユニバーサルデザインの観点を取り入れた表現をする。	アルゴリズムとデータベース活用の基本を学び、自動化の有効性を活用する。
評価の方法	単元テスト	60%	授業態度	20%
			成果物	20%
教科書・教材等	東京書籍 情報の科学			
授業形態	一斉			

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	コンピュータによる情報の処理と表現	身の回りの情報機器をもとに「アナログ」と「デジタル」の関係について学ぶ。さらに、様々なデジタル技術に触れることでデジタル表現の理解を深める。	13					
	5								
	6								
	7								
2	8	ネットワークとコミュニケーション	情報通信技術の基礎を学ぶ。本校のネットワーク構成も引き合いに出し、インターネットの世界や、そこでのコミュニケーションについて知る。	5					
	9								
	10	情報システムが支える社会	情報セキュリティやユニバーサルデザイン、著作権法など、情報化社会における安全・安心とは何かを理解する。	8				○	
	11								
	12	問題の解決と処理手順の自動化	プログラムの基礎として、簡単なアルゴリズムを学ぶ。順次、判断、繰り返しの手順を組み合わせることで、様々な処理を表現する。	3	○				
3	1	モデル化と問題解決	データベースの有用性について、表計算ソフトを使った実習より学ぶ。	7					
	2								
	3	情報通信ネットワークと問題解決	グループで情報機器を活用した問題解決を学ぶ。	3	○			○	

教科名	科目名	単位数	対象学年	履修形態
情報	探究基礎Ⅳ	3	高校1年	必修

科目の目標	デザイン思考を活用し、未来における世界の課題を創造的に解決できるようになる。
学習内容の概要	デザイン思考を使って創造的に課題解決を行います。今後世界においても大きな課題となりうる人口減少問題について、課題先進とも言える鳥取において人口減少問題の課題解決を行います。これまで以上にデータ活用に重点を置き、根拠付けのためでなく、課題解決の方法にデータを活用することも考えてみましょう。AIやビッグデータにも触れながら、みなさんがこれから生きる未来の課題解決について考えます。
評価の観点	・デザイン思考を活用できたか。 ・チームで協力して課題解決できたか。 ・データに基づいた根拠ある課題設定や、データに基づいたテスト(検証)ができたか。 ・世界の課題と地域の課題を関連付けた課題設定ができたか。 ・先進的・革新的な解決策をプロトタイプとして形にできたか。 ・解決策の提案に対して共感を得ることができたか。・設定した課題は解決されたか。
評価の方法	ポートフォリオ 成果物 発表
教科書・教材等	毎回の活動をiPadに記録(ポートフォリオ)していきますのでiPadを忘れないように。
授業形態	一斉

年間学習計画									
学期	月	単元	学習内容	時数	プレゼン	外部講師	校外学習	図書	観点
1	4	オリエンテーション	全体スケジュール、デザイン思考について	8					
	5	IDEACamp	ポートフォリオについて、人口現象問題について	6	○	○			
		【共感フェーズ】	講師: Gene Insight 佐藤氏	5				○	
	6	AI活用ワークショップ	人口減少問題の現状について調べる	6		○			
2	7	人口減少問題講演会	講師: 鳥取大学 三浦氏	5		○			
		プログラミングCamp	講師: 津田塾大学 森田氏	8	○	○			
	8		プログラミングの基本理解	10			○		
	9	【問題提起フェーズ】		16	○			○	
		中間発表	課題解決プランの発表	6					
	10	【アイデア創出フェーズ】	中間発表をもとに解決策の修正と探究スケジュールの作成	6				○	
	11	【プロトタイプ作成フェーズ】	解決策の試作品制作	6		○	○		
	12	SSH東京AI研修旅行		10					
3	1	【テストフェーズ】	解決策の試作品制作	9				○	
	2	【フィードバックフェーズ】	解決策の実施・提案とその効果の検証	5					
		発表準備	解決策の実施・提案とその効果の検証	4	○				
	3	青開学会		8					
		海外研修準備							
		海外研修	オーストラリアにおける人口問題について						